

# 農業の6次化を重視した企業向けパンフレットの企画と提案 ―ケーススタディとしての鹿屋市と小清水町―

池添 恵実  
中山 優奈

[指導教員：武庫川女子大学教授 黒田 智子]

キーワード：カット野菜、パンフレットデザイン、B to B、防風林、区画整理

## 1. 研究の背景

### 1-1 研究の目的と方法

黒田研究室では 2012（平成 24）年度から株式会社 JFC とサラダパッケージのデザインについて産学連携に取り組んでいる。しかし、パッケージデザインは直接売り上げに響き、デザイナーに依頼した場合でも最終的には社長自らが修正し、新たにデザインをおこなうことが多い。一昨年度の研究で行ったホームページデザインが B to B の観点で好評だったことから、今年度は B to B のパンフレットを制作することになった。これは、ホームページのコンテンツとしても使用するという目的を同時に併せ持つものである。

今回、JFC で使われるねぎ・レタスの生産元である、鹿児島県鹿屋市にある『夢かのや』、北海道小清水町市にある『夢オホーツク』の現地調査をおこなった。同時に、各自治体でのヒアリング、資料収集をおこなった。

## 2. 農地の特徴

### 2-1 区画整理

鹿屋市、小清水町では、農地の一区画が大きいいため、大型機器による大規模農業が可能である。

鹿屋市では、1947（昭和 22）年に制定された、「国土総合開発法」の第 1 条に、特定地域を指定し開発するという定めがあり、1951（昭和 26）年には大隅熊毛地区は宮崎県南部と共に南九州総合開発特定地域として指定を受けた。これにより鹿屋市を含む大隅地区は飛躍的な発展を遂げた。一区画あたりを 3ha（220m×270m=6ha の半分）と定め、区画整理が行われた。<sup>1)</sup>

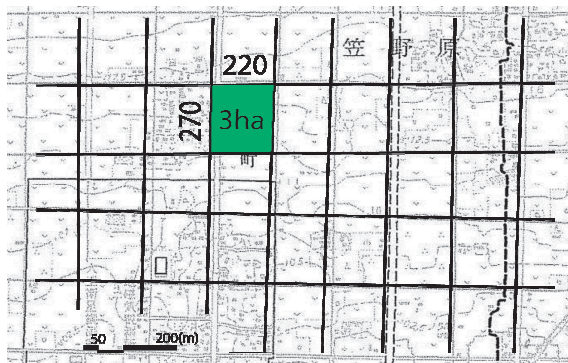


図 1 鹿屋市の土地区画

小清水町における区画の測設はアメリカの区画法を参考にし、北海道の実情を勘案して行われた。止別原野については、

1898（明治 31）年から、1899（明治 32）年の 2 年間にわたり、測量が行われた。区画の線は、東西南北の方位にこだわらず、まず基線を設け、それと直角に交わる基号線と平行して 300 間（約 545.4m）ごとに基盤の目のように区画道路を走らせた。これでできた約 30ha（300 間（540m）×300 間）を中区画とし、これを 6 等分して間口 100 間×奥行 150 間（270m）（約 5ha）の小区画を作り、1 戸分と定めた。<sup>2)</sup>

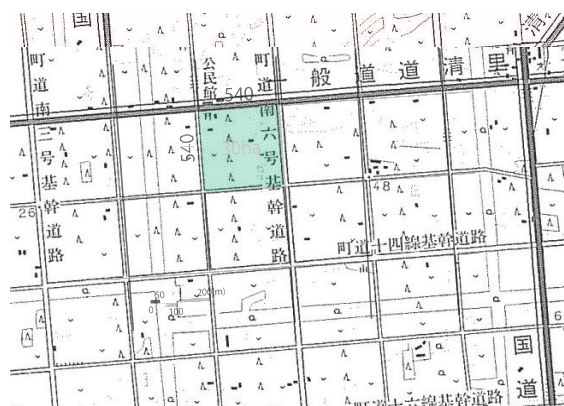


図 2 小清水町の土地区画

両地域共に火山灰の土質のため、水不足が深刻だった。しかし、共に大区画であったため、戦後、灌漑設備が整備しやすかったと考えられる。

### 2-2 防風林

防風林とは、強い風を防いで微気候を改善し、土地の利用度を高める働きする帯状の森林。台風の被害が多い鹿屋市では、防風林で家・屋敷の周りを囲い、強風で屋根や家が吹き飛ばされないよう配置されている。<sup>2)</sup>

設ける場所によって、内陸防風林と海岸防風林に分けられる。風速の減少する範囲は、防風林の風上側で樹高の 5～7 倍、風下側で 35 倍前後である。北海道の内陸防風林では農地を守る幹線防風林が代表的なもので、1896（明治 29）年の殖民地選定区画により、幅 100 間（約 182m）、間隔 1800 間（324m）として設定された。防風林による作物や牧草の増収効果は 20%程度で、特に火山灰土地帯での表土飛散防止や冷害年に大きな効用を発揮する。小清水町では、一区画の中間あたりに区画の線に、平行して横に長く連なる。<sup>3)</sup>

### 資料および参考文献

- 1) 鹿屋市史下巻, p126～p346, 鹿屋市, 1995
- 2) 株式会社『夢かのや』工場見学・ヒアリング調査, 2015. 3
- 3) 新小清水町誌, p4～p296, 小清水町, 2000



### 3.パンフレット制作

沢山の方々と関わり、人柄の良さやその土地ならではの慣習に触れるとともに、景観形成の歴史を知った。一方、日常見かける野菜のパッケージデザインでは、緑を背景に生産者と農作物のみの小さな写真が多い。もっと具体的に生産地や生産者の情報を盛り込み、それらを身近に感じてもらいたい。そのようなパンフレットを『夢かのや』と『夢オホーツク』に一冊ずつ制作。各特徴が相互に引き立て合う表現を目指す。

#### 3-1 表紙：大自然の中、地平線が広がる大農園

(1) 日本離れした大平原が共通の特徴。それを強調するため、パノラマ写真を A4 横長に 3 枚連続使用。3 枚折とし、全て開くと 1 枚のイラストになるようにした。オフィス等でポスターとして使ってもらうことも視野に入れている。

(2) 野菜と動物を組み合わせ、ゆるキャラを創作。レタス・ねぎを、各地域に生息するアライグマや鹿と組み合わせた。生産者にとっては害獣にもなるが、それらをも含めて、大きく豊かな自然の中での農業であることをアピール。

#### 3-2 裏面：景観形成の要素を、上空から一望に

##### (1) 二地域の共通点

- ・大区画の整然としたグリッドをベースに防風林を配置

##### (2) 二地域の相違点

- ・一区画のスケールが異なる：鹿屋市では 110m×170m、小清水では 540m×540m が視覚的に把握できるように工夫
- ・気候の違いで防風林の形状・大きさが異なるので、影をつけて立体的に表現
- ・雲にみたてた半透明枠に歴史・文化・生産者情報を配置



図3 パンフレット表面：鹿屋市(上)小清水町(下)

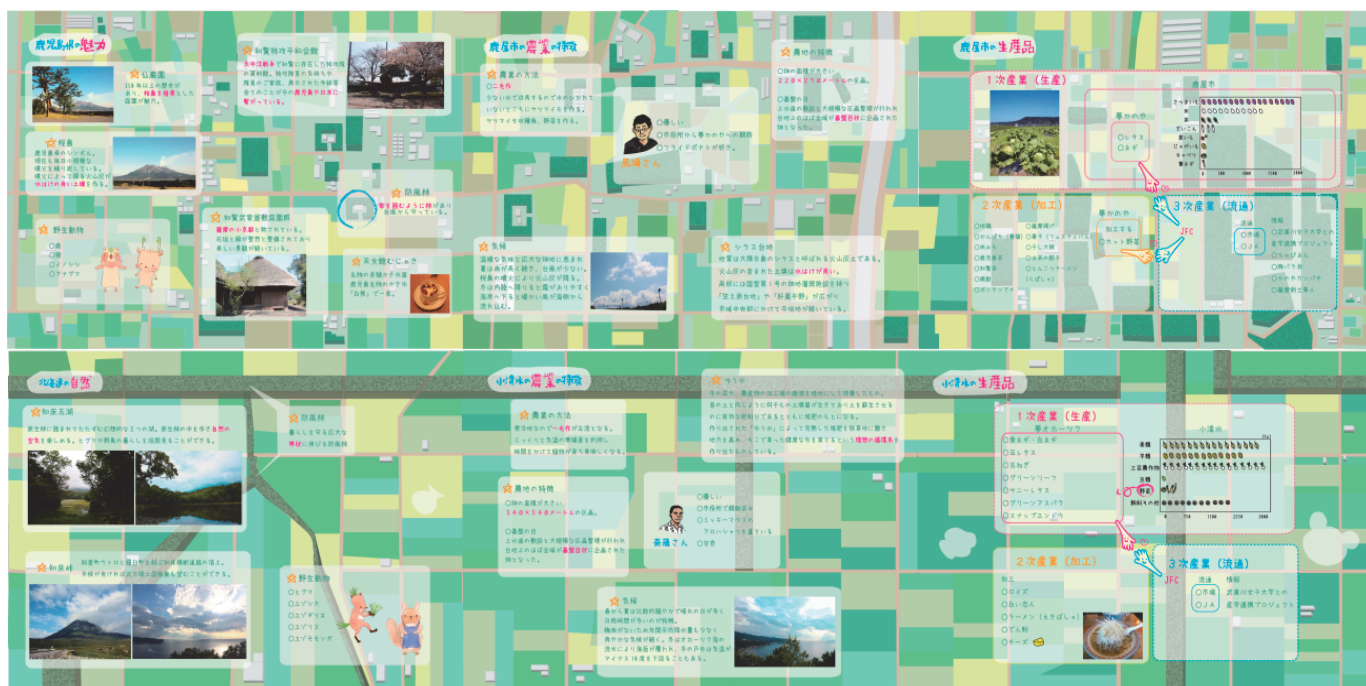


図4 パンフレット裏面：鹿屋市(上)小清水町(下)